

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



フルー村に設置された石堤。やや起伏の強い栽培地に設置されたため、これまでに見てきたものと比べても、かなり強固な造作になっています。

ごあいさつ

厳寒の候、皆様におかれましては大事ございませんでしょうか。日本と比べるのは気が引けるのですが、時節柄ブルキナファソでも 20 度台半ばの気温が続いており、肌寒く感じるが多くなっています。

さて、ブルキナファソの首都ワガドゥグでは、昨年 5 月頃から大規模なインフラ整備工事が続いています。当団体が活動を行なっているバム県でも、県道の舗装や送電網の整備などが進んでいます。大統領が交代してから、国内の充実を図るための施策が矢継ぎ早に実行されているように感じます。一方で、医療や公共機関等の職員が、待遇改善や業務上の不都合を訴え、デモやストライキが頻発するようになっています。住民は、生活や仕事に対して、以前よりも敏感になっているような気がします。直面している現実には悲喜こもごも、というのが実際のところなのかもしれません。

幸いにも、プロジェクト実施地での活動は、順調に進んでいます。わずか 7 村ではありますが、成長した苗木を用材として販売することで現金収入になっていたり、穀物の収穫量が増えたり、女性組合の金庫の金額が右肩上がりだったり、はっきりとした結果が出ています。しかしこれらの結果は、プロジェクトの実施というよりも、住民の取り組みによるところが大きいと考えています。生活や機会に対する住民の強い気持ちももたらした結果であり、私が参考にすべき点多々あるように感じています。

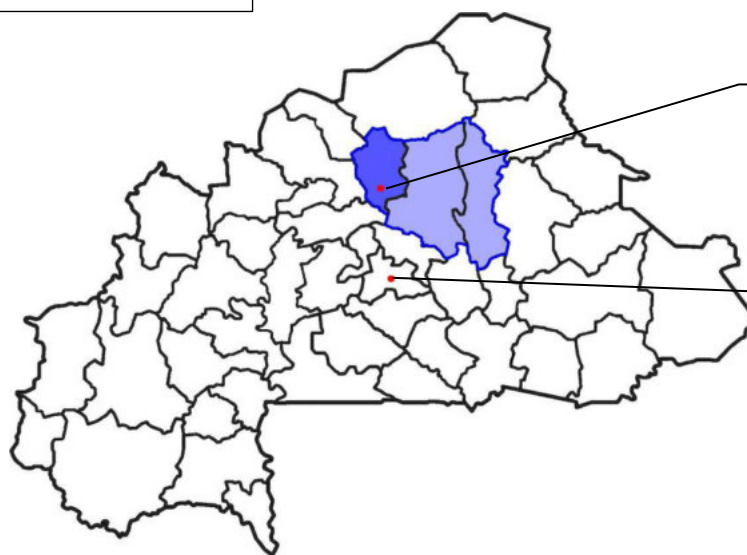
最後になりましたが、皆様のご多幸を心よりお祈りいたします。例年にない強い寒さが続いておりますので、どうぞご自愛下さい。

緑のサヘル 代表理事 岡本 敏樹

ブルキナファソの活動地域図



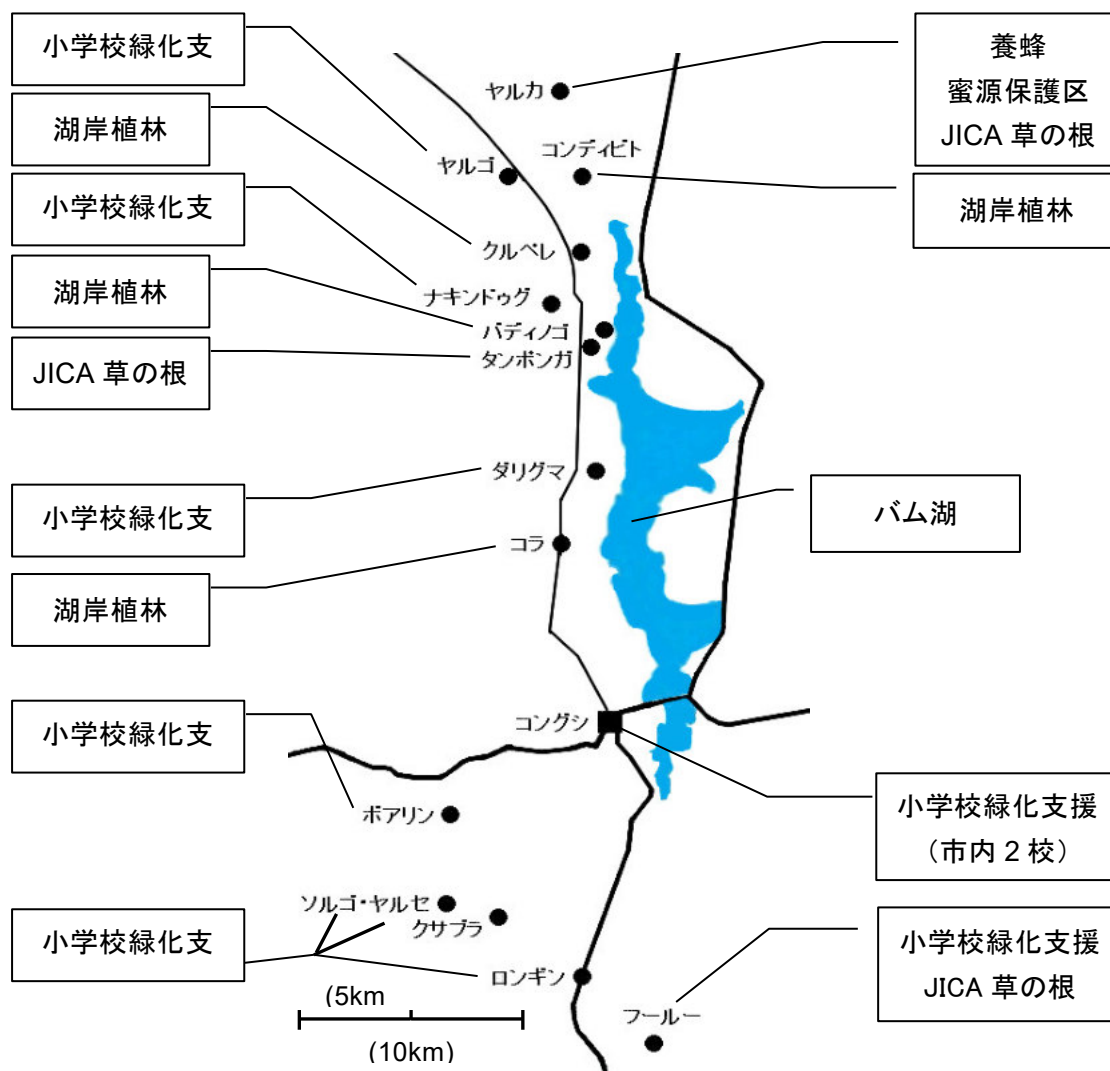
<バム県位置図>



バム県
コングシ市

ワガドゥグ

<バム県コングシ地域活動実施村位置図>



ブルキナファソから 1



2017年1月15日から25日まで、サッカーアフリカカップの第一次リーグ戦が行なわれていました。ブルキナファソのナショナルチームは3戦して、1勝2敗の成績でした。ブルキナファソ戦が行なわれた日、首都ワガドゥグの当団体事務所の近辺では、ご近所の住民のどよめきと歓声が時折わきあがっていました。

JICA 草の根技術協力事業

<ディゲット>

タンボンガ村とヤルカ村、フルー村では、ディゲット（石堤）設置用の石運搬と農地に並べる作業が行なわれています。今回で3回目の作業となるため、どの村でも手際よく進んでいます。しかしこの作業は、大変な労力を必要とします。

何度かご説明していますが、この石運搬と敷設作業は、誰の農地が対象になっても、村の住民による共同作業で行なわれます。とはいえ、事情や予定のある住民もいるため、不都合が生じないように交代制のシフトが組まれています。



男性も女性も、住民総出の共同作業によって、石は並べられていきます。

また、男性と女性の双方で、役割分担がなされています。男性は大きな石の移動や、具合よく並べる作業に携わり、女性は一輪車や荷車で小さめの石を運ぶ作業を担当しています。住民は歌ったり、おしゃべりしたりしながら、賑やかな雰囲気に取り組んでいます。

時期的に暑さはそれほどでもありませんが、収穫後の穀物の切り株や茎が散乱して足元が悪い中、手作業で、約100mの長さに石を2段組みに敷設していく作業は、相当な手間と根気を必要とします。

<近隣村への普及>

昨年5月に、3村の周辺村の住民を対象にした視察研修を実施しました。この研修には、計6村から30名の住民が参加し、タンボンガ村とヤルカ村、フルー村で行なわれている活動の視察と意見交換が行なわれました。今回、各村での状況を把握するため、6村を訪問し、聞き取り調査を行ないました。

実際に応用された技術や知識、実施状況は様々でしたが、何も応用しなかった村はありませんでした。比較的多かったのは、栽培地へのアンドロポゴン（イネ科有用草）植栽でした。こちらで伝えたかったことの一つ、「砂に埋もれて機能を果たさなくなった石堤に沿って植栽」した住民が、各村にそれなりの人数でいたことが分かり、驚きを感じました。



キエンディエンデ村での聞き取り調査の様子。初めての訪問でも、話しやすかったです。

ブルキナファソから 2



小学校緑化支援プロジェクト(第2期)

10校を対象に行なっている緑化支援プロジェクトは、第2期も3年目に入っています。各校とも緑化活動に慣れてきています。第1期と比べ、工夫を凝らす小学校が多いと感じています。一例ですが、フールー小学校の場合を紹介します。

この小学校では、植栽した苗木への家畜による食害に悩まされてきました。防護柵をきちんと設置していても、柵の高さを超えて伸びた枝葉を狙って、家畜が寄ってきます。

そこで2016年は、菜園を兼ねた区画に苗木が植えられました。区画の周囲は金網で囲われており、家畜は侵入できません。そのため苗木は丈高く、旺盛に成育しています。

また、菜園活動で使用している乾燥糞が、苗木の根元にまかれていました。時として、乾燥糞はシロアリ害を招く要因になりますが、植栽時に忌避剤を土中に混入してあるので、問題はありません。4月の評価が楽しみです。



フールー小学校の菜園に植えられたニーム苗木。食害されず、大きく成育しています。

チャドから



収穫を迎えたため、食糧事情は改善しています

現地では、11～12月に穀物の収穫時期を迎えます。今期の収穫状況は平年並みで、1月末か2月初め頃までは、消費量を賄える見込みです。市場の販売価格も平年並みに落ち着いており、5月頃までは安定していると思われます。食糧事情の先行きは、当面は安心といえます。

ただ、11月の気温が平年よりも高めであったことから、土地の乾燥がやや早く進んでしまいました。このため、土中水分のみで栽培される晩生のモロコシ（ベレベレ）は、成育が抑制されてしまいました。追加の穀物としては期待が持てないかもしれません。



収穫が近い晩生のモロコシ（ベレベレ）の栽培地。11月に播種、翌2月頃に収穫。（1999年）

残念ながら、収穫直後の食糧事情の改善は一時的なものであり、しかもその持続は短期間です。根本的な問題は、収穫量の不足や調達力の不足です。栽培地の生産性を上げたり、家計収入を増やしたりすることに対する支援が、必要とされています。

国内活動



今期は特に大きなイベントはありませんでしたが、11月に毎年の恒例となっている岩手講演を実施しました。また、現地でより良い活動を行なうため、JICA（国際協力機構）が主催する情報交換会や安全研修に参加しました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

2016年				
11月	6日(日)	「おいものせなか」(エコロジー&フェアトレード)	講演	(菅川)
		(花巻市：一般15名)		
	8日(火)	盛岡市立 桜城小学校 (5年生64名・6年生63名)	講演	(菅川)
	9日(水)	滝沢市立 滝沢東小学校 (5年生49名)	講演	(菅川)
	10日(木)	盛岡市立 下小路中学校 (3年生201名)	講演	(菅川)
	11日(水)	「JICA 草の根技術協力事業」情報交換会	出席	(大谷)
		盛岡市立 見前南中学校 (1年生152名)	講演	(菅川)
	14日(月)	一関市立 東山中学校 (2年生55名)	講演	(菅川)
	15日(火)	盛岡市立 黒石野中学校 (2年生137名)	講演	(菅川)
	16日(水)	「緑のサヘル岩手報告会」(盛岡市：一般10名)	講演	(菅川)
	17日(木)	一関市立 花泉中学校 (1年生113名・3年生112名)	講演	(菅川)
12月	1日(木)	JICA 安全対策研修	参加	(大谷)
2017年				
1月	17日(月)	「世界食料デー月間」ミーティング	出席	(菅川)

2016年 岩手講演

毎年11月に、岩手県内の学校や一般の方々を対象とした講演を行なっています。今回は11月6日から17日の日程で実施し、3市の計9か所(小学校2、中学校5、一般2)でお話しさせていただきました。

この講演では、現地の日常的な生活、砂漠化の進行と現状、それによって危機に直面している住民の命と生活、現状を改善しようとする住民と「緑のサヘル」の取り組み、またその成果を、画像を用いながら分かりやすく説明しました。



「緑のサヘル盛岡支部」主催による一般対象の講演。毎年、多くの質問や意見が寄せられます。

初めて講演を企画していただいたところもあり、期間中にお話を聞いて下さった方は計1,030人(小学生176、中学生770、教師49、一般35)に上りました。この岩手講演は、毎年恒例となっていることからメディアで取り上げられることも多く、今回も地元のテレビや新聞で、講演の様子や生徒たちの感想が紹介されました。



自然の恵み ハケ岳製品を！

大自然の中、丹精込めて作られたチーズやカレーはいかがですか？

長野県のハケ岳山麓に、「ハケ岳中央農業実践大学校」があります。ここでは、営農を志す青年たちが、豊かな緑の中で作物や野菜、乳製品や加工食品作りに、日々汗を流しています。

「緑のサヘル」代表の岡本と事務局長の菅川は、この学校のOBで、ここで2人は出会いました。その縁もあり、「緑のサヘル」を通じて製品をご注文頂くと、大学校のご厚意によって、売上げの20%が当団体に寄付されます。



メニューがリニューアルされました。
詳しくは最終ページをご覧ください！

ブルキナファソのお正月

皆さん、お正月はいかがお過ごしでしたでしょうか？ 日本では、お正月は一年の中でも最も重要な祭りの一つであり、各地で様々なイベントが催されます。でも、どうやらブルキナファソではそうでもないようです。

実は、ブルキナファソの正月休みは元旦の1日だけで、特にイベントらしいイベントも行なわれません。町はとても静かで、うっかりするといつもの日曜日と勘違いしたまま過ごしてしまいそうなほどです。

ブルキナファソには、キリスト教、イスラム教、伝統的宗教等を信じる方々が混在していますが、キリスト教徒の方々にとってはクリスマスの方が大切な祭事であり、どうもお正月はクリスマス休暇の一部くらいの感覚のようです。

またイスラム教徒の方々の場合、使っている暦が太陰暦なので、太陽暦の1月1日はあまり意味がありません。元旦は毎年約11日ずつずれて行き、今年は9月21日がイスラムの元旦になります。



ブルキナ事務所近くの市場。さすがに元旦は休みですが、お正月中も開いています。

そんな訳で、とっても地味なブルキナファソのお正月でした。（菅川 拓也）

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 継続会員のみなさま 】

杉本和／内藤篤／村井智恵子／木嶋清江／田辺諄児／太田弘子／梅田暢子／加藤和雄
今野進／野々山富雄／田中ちえ子／東千尋／柏原竜一／宮田春夫／上野幸子／片岡稔
佐々木順平／山田高司／矢野友一郎・正代／後藤琢雄／竹越久美子／野口鉄雄／西田陽子
鈴木幸子／瀬戸栄一／瀬戸義子／山田規矩子
他 匿名をご希望の方 3名

【 ご寄付を頂きました 】

氏岡治代／賀川麻衣／竹中和子／高橋菜々子／太田宜子／石毛弘／井上るみ子
土蔵愛子／中久保慎一／越智美代子／佐藤弘美／伊藤雄高／小笠原弘子／碓井道子
須藤さい／榎本みつ枝／森田康子／小池昌子／小森淳子／木嶋清江／大枝純・美智子
田辺諄児／加納愛子／武藤真由美／太田弘子／手塚太郎／宮本秀子／丹邦子
秋山美知子／梶野修平／梅田暢子／徳永由希子／佐藤裕美／伊藤敬子／葛原睦子
松本恵子／田中ちえ子／瀬戸義子／奥康功／小野晶子／東海林茂子／中尾寿美
谷村泰子／水島多衛子／神野潤子／青柳美知子／赤山孝子／田中節朗／富谷晋
花垣正／宮田春夫／高木真味子／勝間朋子／鈴木潤／武藤彰子／(有)プリモ 木村恵子
佐藤郁子／尾上素子／信野正夫／佐久間典子／山本里美／佐伯利恵／加藤文子
足寄町立芽登小学校／方川寛翔／山田規矩子／小林伸張／援助修道会 管区本部
日本聖公会 西宮聖ペテロ教会／岩手講演参加者
かみひとねっとわーく 京都＜事務局＞蛸名健仁・加奈子
カフェ&窯 バオバブ 堀越信代／個別教育フォレスト 安多秀司
他 匿名をご希望の方 3名

【 BOOK募金を通じてご寄付を頂きました 】

森山繁
他 匿名をご希望の方 1名

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

齊藤美子／一関市立花泉中学校／高橋聖子／齊藤せい子／米江勝彦
緑のサヘル盛岡支部

上記は 2016年11月1日から 2017年1月31日までに支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構(JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(社)国土緑化推進機構)／(公財)国際緑化推進センター
isave(シーブ株)／アフリカ料理 トライブス／gooddo(株)
(財)農村更生協会 ハヶ岳中央農業実践大学校／(特活)国際協力 NGO センター
(特活)環境アリーナ研究機構／国際連合食糧農業機関(FAO)／(株)グリムス
URBAN GREEN MAKERS／(公社)国際農林業協働協会／(株)プレジャーワークス
ソーシャルアクションリング／マチウケル！(株)廻船問屋
かざして募金 ソフトバンク／ジャパングビング／あんのん基金

「緑のサヘル」からお知らせ

書き損じハガキ・切手などは「緑のサヘル」へ！

皆さんの家に、書き損じハガキや年賀状、未使用切手、余っている商品券や図書券はありませんか？ もしありましたら、是非「緑のサヘル」までお送りください！

事務局では、これらお送りいただいた品々を通信業務に活用させていただいており、とても助かっています。

例えば書き損じたハガキでも手数料を払うことによって、新しいハガキや切手に交換することができます。



随時受付していますので、
どうぞ よろしく願いいたします！

【 もくじ 】

- | | |
|----------------|---------|
| 1・表紙 | 5・国内活動 |
| 2・ブルキナファソ活動地域図 | 6・事務局より |
| 3・ブルキナファソから 1 | 7・ありがとう |
| 4・ブルキナファソから 2 | 8・お知らせ |
| チャドから | |

< スタッフよりひと言 >

● 1月14日から、サッカーアフリカカップの試合が続いています。ブルキナファソチームは予選を突破し、準決勝まで進んでいます。29日は、前祝いを兼ねたお祭り騒ぎで賑やかでした。(岡本)

● 世界中で分裂と対立が激しくなり、毎日が減入るようなニュースばかり。でも最近、朗報がありました。西サハラの領有問題でアフリカ連合を脱退していたモロッコが32年ぶりに復帰！ アフリカ55か国が初めて顔を揃えました。(菅川)

● 3月8日は国際女性デー。ブルキナファソでは毎年揃いのドレスを着て、女たちが街を練り歩くそう。ブルキナのジェンダーギャップ指数は123位、日本は111位。私たちも頑張らねば。(本所)

● 極寒の日本からブルキナファソへ。心地よい暖かさに体はほっこり。ただし乾季のため肌の乾燥と埃っぽさは強力。この時期、ブルキナファソでも布製マスクが定着してきたようです。(大谷)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

♪ メニューがリニューアルしました ♪

ハケ岳農場の特産品

「ハケ岳中央農業実践大学校」の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々。おなじみのチーズ・アイスクリーム・カレーに、卵・乳製品が加わりました。送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに
定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00120-7-419488「緑のサヘル」

お振り込みからお届けまで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	4,644	4,752	4,860	4,968	5,076	5,616
B	3種アイス 10個	4,968	5,076	5,184	5,292	5,400	5,940
C	アイス6個	3,564	3,672	3,780	3,888	3,996	4,536
D	チーズ3種	4,536	4,644	4,752	4,860	4,968	5,184
E	カレー2箱/ チーズ5種	6,048	6,156	6,264	6,372	6,480	7,020
F	ヨーグルト/ 牛乳	2,916	3,024	3,132	3,240	3,348	3,888
G	カレー6箱	4,320	4,320	4,536	4,644	4,752	5,292
H	青卵12個 / ジャム2種	3,996	4,104	4,212	4,320	4,428	4,968
I	赤卵30個	1,728	1,836	1,944	2,052	2,160	2,700
J	アイス20個	7,668	7,776	7,884	7,986	8,100	8,964

※カレーは、甘口か中辛のどちらかをお選びいただけます。

内容の詳細をご希望の方は、事務局まで
ご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol.69

編集 岡本敏樹 菅川拓也 本所稚佳江 大谷恵美 /印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 NASビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041